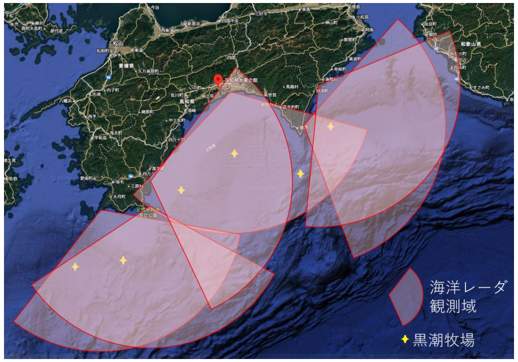
# 多様な主体を巻き込んだ海洋レーダー導入検討

漁業者への海洋情報提供の高度化に向け、海面の流れや波の状況を広域的に把握できる海洋レーダーの導入可能性を検討。
地域情報化アドバイザーの支援を活用し、関係者向けセミナーや現地調査を通じて理解醸成と具体的な検討を進めた。

▲ 海洋レーダーの例




▲ 高知県沿岸の観測域想定

◀講習の様子

**四国**　**高知県**　｜ **事業名：高知県沿岸への海洋レーダー設置**

## 課題

高知県沿岸の黒潮の影響を受ける複雑な海況が、
漁業の好不漁や操業判断に大きく影響している。

**藤井 智史**アドバイザー

計画策定支援　防災　農林水産業

派遣回数 3回（実地3）

## 支援による成果

- 漁業関係者や関係部局の理解・関心が向上
- 海洋レーダー活用への期待や導入ニーズを把握
- 新たな設置候補地や観測方法の可能性を確認
- 導入検討を進めるための方向性を整理

## ポイント

### 地域課題に対して多様な関係者を巻き込みながら導入可能性を検討

黒潮の影響を受ける高知県の漁業課題をテーマに、海洋情報の高度化に向けた検討を推進。

### 地域の関係者を巻き込んだ理解醸成

自治体職員だけでなく、漁業者や漁協、水産企業など幅広い関係者がセミナーへ参加。
漁業関係者からは、積極的な質問や意見があり、海洋レーダーへの高い関心と期待が確認された。
県の水産部門だけでなく、土木・危機管理部門にもに関する知見や有用性を共有

## 課題・背景

黒潮の影響を受ける高知県沿岸では、流向・流速や波浪情報が漁業者の操業判断や安全確保に重要な役割を果たしている。

一方、既存設備では限られた地点の観測しかできず、広域的な海況情報の提供が課題となっていた。

また、海洋レーダーの導入を検討するにあたり、

- 最新技術や導入費用に関する情報が不足
- 関係者間で有用性への理解に差がある
- 設置場所や運用方法を具体的に検討できていない

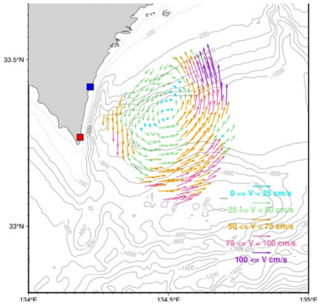
という課題を抱えていた。

## 支援内容

### 1回目　セミナー（実地）

**自治体職員、漁業関係者、企業・団体関係者等を対象に海洋レーダーについてセミナーを開催**

- 海洋レーダーの仕組みや特性を解説
- 他地域の導入・活用事例を紹介
- 導入による効果や活用可能性を説明
- 関係者との質疑応答・意見交換



室戸岬東岸での観測実験

### 2回目
### 3回目　現地視察（実地）

**設置候補地の現地確認と条件整理**

- 設置候補地を現地視察
- 観測範囲や地理条件を確認
- 設置に必要な条件を助言
- 適地選定の考え方を整理

## 成果

- 海洋レーダーの有用性について関係者の理解が向上
- 水産部門以外にも技術や活用効果を共有できた
- 新たな設置候補地や導入方法の選択肢が広がった

## 地域への広がり

**海洋レーダーへの関心が地域で拡大**

- セミナーに参加した漁業関係者の声かけから、高知県東部の漁業者団体から海洋レーダーに関する講演依頼があったため、翌年度に高知県水産試験場職員が団体の会員約30名に対し講演を行った。
- 複数の漁業者から、海洋レーダーが導入されれば、若手漁業者のスキルアップや操業の効率化、新規参入者増加への貢献が期待されるため、導入してほしい、等の声が聞かれた。
- セミナーの実施により、今後、県内他地区の漁業関係団体等においても海洋レーダーへの関心が高まる可能性があり、海洋レーダー導入のニーズが高まれば、導入の後押しになることが期待される。

## その後の事業状況

高知県では水産業のデジタル化を推進しており、その取組の一つとして、漁船漁業における操業の効率化を進めている。

海洋レーダーにより海流の向きや速さ、波の情報が「面」としてデジタル化され、漁業者に提供できるようになれば、操業効率や安全レベルの飛躍的な向上が期待される。

今後は、当県沿岸における更なる漁船漁業の操業効率化を図るために海洋レーダーの導入・運用を目指していきたい。